

渡久地港の遠景(本部町)

本部町は「カツオの町」として知られ、最盛期には約40隻のカツオ船が操業し、渡久地港に水揚げされていました。1975年に開通した湾口をまたぐ本部大橋は町のシンボルの一つにもなっています。水納島への定期航路に加え、2020年から那覇と名護・本部を結ぶフェリーも運航しています。

復帰の頃



現在



奥武橋(南城市)

本島と奥武島を結ぶ奥武橋は1936年に木造で架けられました。2代目の橋は沖縄戦で破壊されましたが、1951年に3代目となる鉄橋が完成。1990年代には島の一周道路が開通し、2010年に6代目の橋が竣工。島民にとってかけがえない橋としてその役割を果たすとともに、本島南部のドライブコースとして人気を集めています。

復帰の頃



現在



真玉橋(豊見城市/那覇市)

国場川に架かる真玉橋は、琉球王朝時代に首里城と那覇港を結ぶ真珠道(まだまみち)の一部として重要な役割を果たしていました。五連の石造アーチ橋は、沖縄戦で撤退する旧日本軍によって破壊されました。現在の橋は2002年に再建されたものです。

復帰の頃



現在



瀬長島海中道路入口(豊見城市)

沖縄本島と瀬長島を結ぶ海中道路は、終戦翌年の1946年に米軍によって建設されました。1977年に瀬長島が米軍から返還された後はレクリエーション施設が整備されたほか、近年ではリゾート地として多くの観光客も訪れています。ドライブコースとして、また対岸の那覇空港を離発着する航空機が間近で見れる撮影スポットとしても知られています。

復帰の頃



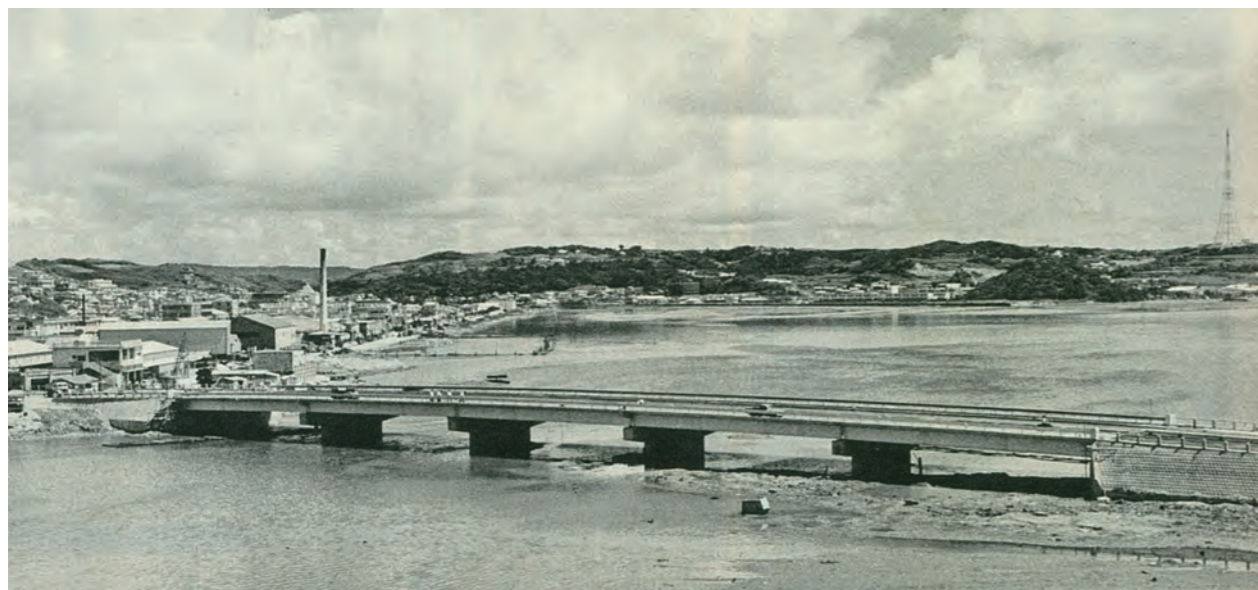
現在



那覇大橋(那覇市)

国場川に架かる那覇大橋は1970年に開通しました。ひめゆり通りから小禄方面に抜ける橋として、朝夕には多くの車が往き来しています。その後、橋周辺の県営奥武山公園などが整備されたほか、小禄側の橋のたもとにはゆいレールの奥武山公園駅があります。

復帰の頃



現在



比謝川大橋(嘉手納町/読谷村)

嘉手納町と読谷村の境界を流れる比謝川には、かつて船が通る度に川と並行方向に回転する「回転橋」が架かり、地域住民の生活を支えていました。復帰当時の写真では遺構を残すのみとなっていますが、1991年に「比謝川大橋」が完成し、地元では「赤橋(あかばし)」の名で親しまれています。

復帰の頃



現在

